

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

133号

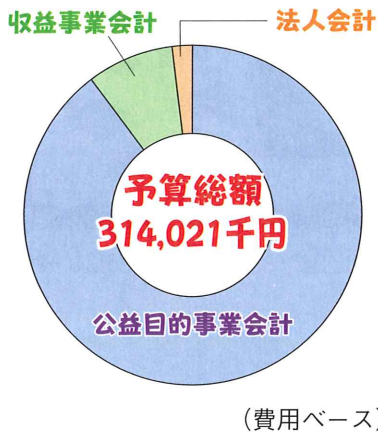
■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平成24年度予算・事業計画のお知らせ
- 祈念館事業「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」実施報告
- 「継承部会・平和案内人交流会」開催報告
- 平成23年度 被爆体験講話状況報告
- TOPICS (八名信夫氏講演会開催報告、米国新型核兵器性能実験に対する抗議文送付報告)



グループで意見を出し合い、自身が考える平和のポスターを作成している参加者 (4～6ページに関連記事)

平成24年度の予算と事業計画をお知らせします!



公益目的事業会計 294,643千円 (前年度比▲19,692千円)

不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する事業を言います。

内訳 ①平和推進事業(30,986千円)

(協会が実施するさまざまな平和関連の事業の会計です。)

②原爆資料館運営事業(15,582千円)

③原爆資料館図書資料収集整理事業(4,830千円)

④国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業(243,245千円)

収益事業会計 16,900千円 (前年度比▲1,360千円)

原爆資料館の売店で平和関係の図書やグッズを販売する事業の会計で、収益は主に平和推進事業に繰り入れてさまざまな事業に使っています。

法人会計 2,478千円 (前年度比▲1,509千円)

法人の事業を管理するため毎年度経常的に要する費用を言います。

次の表は、みなさまからの会費や寄附金を受け入れる2つの会計(平和推進事業会計・法人会計)の主な内訳です。
 【収益の部】 (単位:千円)

科 目		平和推進事業会計	法人会計	計	前年度との差
基本財産運用収入	基本財産から得られる利子	25	0	25	0
会費収入	会員のみなさまからいただく会費	2,764	2,111	4,875	1
補助金収入	長崎市から交付される補助金	27,100	0	27,100	▲1
寄附金収入	協会に寄せられる寄附金	300	300	600	▲10
雑収入	各科目に当てはまらない収入	1	0	1	0
小 計		30,190	2,411	32,601	▲10
他会計振替額	収益事業会計からの繰入金	100	0	100	0
合 計		30,290	2,411	32,701	▲10

【費用の部】

科 目		平和推進事業会計	法人会計	計	前年度との差
事業費		30,986		30,986	1,597
発刊事業費	会報「へいわ」などの発刊等に係る費用	1,213		1,213	▲543
啓発事業費	被爆体験講話の実施や市民のつどい、講演会の開催等に係る費用	2,103		2,103	795
調査研究費	国際会議等への出席に係る費用	43		43	0
育成事業費	部会活動の支援、アジア青年平和交流事業、平和案内人の派遣、秋月グラント(助成)事業等の実施に係る費用	5,403		5,403	299
人件費	事業に係る人件費分	18,696		18,696	537
その他事務費	広報・事業推進委員会会議費、PCリース料など共通の事務費	2,832		2,832	646
減価償却費	什器備品・ソフトウェア	696		696	▲137
管理費			2,478	2,478	▲1,509
人件費	理事会・評議員会等に係る人件費分		1,187	1,187	▲392
その他管理費	協会の運営管理に係る費用		1,224	1,224	▲1,184
減価償却費	ソフトウェア		67	67	67
合 計		30,986	2,478	33,464	88
減価償却費を除いた合計		30,290	2,411	32,701	▲10

I 平和推進事業（公益目的事業会計）

発刊事業

会報「へいわ」の発行 年4回、協会活動の情報発信を行う。

ブックレット「平和のあゆみ」の発行 協会が取り組んだ事業概要の作成（年1回発行）

広報活動 情報ボックス、会員勧誘リーフレット作成

啓発活動

平和学習の実施 被爆体験講話、平和学習用のビデオ・写真パネルの貸出など。

講演会等の開催 年1回平和問題への認識を深める講演会等を開催

国連軍縮週間行事 市民向けイベント「市民のつどい」の実施

調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムへの参加出席

育成事業

部会活動 継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会の各活動への支援

アジア青少年平和交流事業 日本の若者とアジア諸国の若者との意見交換、相互理解を目指して実施

平和事業への支援 協会の活動趣旨と一致する事業などへの助成

秋月グラント 被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等への助成

平和案内人の派遣事業 碑めぐりや資料館、祈念館等の案内ガイドとしての平和案内人の派遣

II 原爆資料館運営事業（公益目的事業会計：長崎原爆資料館観覧料徴収及び受付案内業務）

III 原爆資料館図書資料収集整理事業（公益目的事業会計：同資料館図書資料整理業務）

IV 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業（公益目的事業会計）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の運営を通じて、協会とのかかわりの深い次の事業を行います。

被爆体験講話映像制作 被爆体験講話の収録、映像化

被爆関連資料多言語化 収集した被爆体験記や被爆証言映像の翻訳、吹替映像の制作

海外原爆展 原爆のことを知る機会の少ない海外の人たちに向けて現地で原爆展を開催

ピースネット 地理的理由により、来崎が難しい遠隔地の小・中学生、海外の人たちを対象にインターネット会議システムによる被爆体験講話を実施

被爆体験記朗読ボランティア育成 被爆の惨状を朗読によって語り継いでいくボランティアの育成

平和ボランティア育成外国語講座 被爆の実相を世界に広げていくため、外国語（英語、中国語、韓国語）で平和ゾーンを案内するボランティアの育成

平和・国際交流のためのプログラム アジアの若者による平和のためのネットワーク作りを推進するプログラムの実施

V 図書販売事業（収益事業会計）

VI その他管理運営に係る費用（法人会計）

追悼平和祈念館

「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」

「平和推進協会」「アジア青年平和交流事業」とのコラボレーション」

3月15日（木）から同21日（水）にかけて、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（追悼平和祈念館）事業「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」が開催されました。

これは、当協会が日本（長崎）とアジアの若者同士の相互理解を目的として平成15年度から実施してきた「アジア青年平和交流事業」の成果をより発展させ、平和の実現に向けたアジアの若者によるネットワークづくりを目指して、追悼平和祈念館が平成21年度から開催しているものです。

マレーシア人、韓国人の計17名が来崎

今回は、アジア青年平和交流事業でもお世話になっているマレーシア・マラヤ大学からはアジア・ヨーロッパ研究所長のモハメド・ナスルディン博士、東アジア研究学部長のザカリヤ・ムスタファ先生と学生7名、また（社）釜山国際親善協会からは李相烈常任理事と同協会が選抜した大学生・高校生7名の合計17名が来崎しました。



← 原爆資料館見学の様子



→ 被爆体験講話聴講の様子

爆心地公園の見学を行い、被爆の実相について学習してもらいました。

アジア青年平和交流事業（活水高校いしぶみり活動）とのコラボによるプログラム〜日本人学生や留学生も参加

17日、18日の両日は、日本人の大学生・高校生や社会人さらには長崎在住の留学生（中国人、バンングラデシユ人）も参加して、交流会と平和ネットワーク構築に向けてのディスカッションを行いました。

さきほど触れたアジア青年平和交流事業については、今年度（平成23年度）より従来の「長崎とアジアの若者がそれぞれの国を相互訪問する形式」から「長崎の若者がその交流内容を企画、提案かつ実施する形式」に変更されましたが、それを受けて行われた公開コンペティションにおいて、みごと事業認定された活水高等学校平和学習部の「いしぶみり活動」（原爆に関するモニユメントの清掃活動を通じて平和について学び、考える活動）のメンバーが今回の平和ネットワーク構築プログラムに参加し、特に17日、18日両日のプログラムの企画、運営を行いました。

その中で、17日は、ゲームを使ったアイス・ブレーキングを通じて参加者が交流を深め、一気にうち解けた雰囲気になりました。その後、翌日の本格的なディスカッションに向けて平和について身近なものから考えながら意識を高めていきました。



→ 考和し者が平に絵を分る参加者自えをした



← 活水高校の様子の発表

翌18日の午前中は、いしぶみりチームのメンバーが彼女たちの活動の中心の一つとなつて

いる継承部会員松添博さんの紙芝居「ふりそでの少女」を英語と日本語で上演し、その後、全員でふりそでの少女像（「未来を生きる子ら」）周辺を散策しました。そこでは若くして原爆によって亡くなってしまった二人の少女と、一方で好きな勉強や遊びが不自由なくできる自分たちとを対比しながら、平和の大切さをかみしめていたようでした。その日の午後は、原爆資料館の正面玄関前で核兵器廃絶を訴える署名活動を行いました。はじめて署名活動を行う参加者がほとんどで最初はとまどっていました。が、次第に慣れ、最後は大きな声で道行く人に署名をお願いしていました。



署名活動の様子

活発なディスカッションが行われる

署名活動を終えた後、今回の

プログラムの中でもっとも重要なイベントである「アジアの若者として何ができるか？何をすべきか？」アジアの若者による平和ネットワークづくり」をテーマとしたディスカッションが行われました。

参加者たちは、前日からの交流を通じて気軽に話し合える雰囲気になっていたので積極的に意見やアイデアがだされまし

た。その日の夜は、祈念館と推進協会の幹部も出席し、稲佐山展望台のレストランで食事をしながら、ディスカッションで若者から出された意見やアイデアについて、今後どのように実現していくか、またそのために祈念館や推進協会としてどのようなサポートしていくかについてさらに議論を深めました。

なお、19日を挟んで、20日には、今回参加したマレーシア人、韓国人一行に長崎の歴史や文化を知ってもらうため、活水高校生も同行の上、市内各所の視察を行い、翌21日、帰国の途につきました。

今回頑張ってくれた活水高校の生徒さん達（松尾彩花さん、山口真莉絵さん、藤本千尋さん、眞田美歩さん）に感想文を書いてもらいました。

私たちはこのような国際交流プロジェクトには参加者側として参加したことは何度かあったのですが、私たちが企画して、主催するという試みは初めてのことでだったので楽しみという反面、多くの不安もありました。アイスブレイキングや平和についてのディスカッションのアイデアは追悼平和祈念館との話し合いを通して、また、自分たちの経験をいかして、わりと簡単に考えることができました。ふりそでの少女の絵本朗読の練習や、必要な道具の買出しは苦労する点もありましたが、とてもいい経験になりました。

私たちの一番大きな不安は、韓国、マレーシア、日本という言葉も全く違う国から来た者同士、仲良くなれるのだろうかということでした。しかし、韓国の方々はとても明るく活発で、マレーシアの方々もとても優しく、人当たりもやわらかく、すぐに打ち解けることができました。本番では計画どおりに進まず、ミスも多くありましたが、なんとかみんな協力して成功させることができました。

最後のフェアウェルパーティーの時はとてもみんな仲良く楽しい雰囲気でお別れするのが寂しいくらいでした。今回は、初めての経験ということもあり、反省点も多くありますが、もしまたこのような機会を頂くことが出来たら、その時に活かしたいと思っています。



司会をする4人(写真左から山口、松尾、眞田、藤本)

マレーシアからの参加者の感想

平和・国際交流プログラムに参加して

マレーシア・マラヤ大学

モハメド・イクバルさん



今回の「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」は大変成功したと思われ、韓国、そして日本からの参加者に感謝します。

私たちは、原爆資料館を見学して被災資料を見たり、被爆者深堀譲治さんの体験講話を聞いたりする機会を得ました。さらに、被爆者松添博さんのふりそでの少女の話について紙芝居を通じて知り、ご本人とも話をするのができました。松添さんとお会いするのは2回目ですが、ご健康であり続けることをお祈りします。なぜなら、被爆者のお話は、世界に平和のメッセージを届けるための貴重な財産であるからです。

今回の経験は、私たちがもつ平和な世界を作りあげていくための契機になると思います。被爆者のメッセージを決して忘れることなく、マレーシアにいる他の学生にもこの経験を伝えていきます。被爆者とお会いした時、私の祖父と話しているような気がしました。3年前に亡くなってしまいましたが、祖父本人に会えたよううれしい気持ちになりました。

また、いろいろな国の若者が平和の意味について意見交換する機会を得ることができて、とても有意義でした。私たちは、異なる国、言語、文化を持つていますが、平和な世界を作っていくというゴールにおいては異なる点は

何もありません。この意見交換において得られたアイデアは私たちのこの使命を実現していく上で大変重要なものになっていくと思います。

7日間の長崎滞在中、新しい友達や決して忘れることのできない経験を得ました。私たちの使命を果たし、ゴールに到達するためにまたどこかで再会できることを望んでいます。

「平和ネットワーク構築プログラム+被爆者のメッセージ+マレーシア人のアイデア+韓国人のアイデア+他の国からの参加者のアイデア」『平和な世界』となりますように。(日本語訳・祈念館)

韓国からの参加者の感想

「人のために、世界のために、地球のために、そして未来のために」

韓国・慶尚大学校

金秀香さん



活水高校の生徒たちと過ごした2日間、私自身、個人として多くのことを感じた時間でした。参加者全員が平和について考える幅が広がったし、多くの観点から見られるようになったようです。

核兵器廃絶のために、また、アジアの貧しい子供たちを助けるために多くの活動をしている高校生が作ったプログラムを通じて、一緒に署名活動をしたりしながら交流を深め、その後、平和というテーマで私たちはお互いに意見を交換しました。

偏見と誤解は戦争を作り、多様なコ

ミニセッションと正確な情報認識によってトラブルが惹起することを防ぐことができるということが、私たちグループの主な内容でした。ここで皆が必要だと感じたことは、誤った歴史認識による誤解は、平和を作っていくうえで大きな障害物になるので、それを正すべきだということです。

活水高校の生徒たちのプログラムの中で、特に記憶に残ったことは、ふりそでの少女たちの紙芝居とその記念碑でした。原爆によって自分たちの夢をつかむことができずに死んだ史子さんと美奈子さんの話を聞いて、心があまりにも切なくて痛いながらも、その瞬間に思ったことは、私たちは今平和のために何をすべきかと叫んでいるが、もしかしたら、すでに私たちは平和に生活しているかもしれないということでした。

でも、学びたいことを学んで、やりたいことをやっている、また、行きたい所へ行って、会いたい人に会う、このすべてのものが与えられた私でさえ、そしてこの世を生きている数多くの人々も、それにもかかわらず平和を叫んでいます。

このことを「なぜだろう?」と良く考えてみれば、これからは、もう個人の平和だけを、1カ国だけの平和を望むのではなく世界ですべての人の平和を望まなければならぬということではないかと。活水高校の生徒たちやマレーシア、中国、バンガラデシュの人々と一緒に参加した今回の交流プログラムを通じて、もしかしたら少しは平和に近づいたのではと思いつつ、人と世界、そして地球と未来のために世界平和を夢見る私たち若者の交流ネットワークが益々発展していくことを願っています。

継承部会・平和案内人交流会を開催しました

1月21日(土) 長崎市の龍宴にて「継承部会・平和案内人交流会」を開催し、継承部会員(被爆体験講話者)23名、平和案内人30名、事務局8名の61名が参加しました。

継承部会長より報告が寄せられましたので、ご紹介いたします。

継承部会と平和案内人との交流会

継承部会長 中川 知昭

1月21日(土) 11時30分より龍宴にて交流会を開催しました。

この交流会は、継承部会と平和案内人がお互い本音で話し合う会にしようとして継承部会が主催し、約60名が参加しました。

まず私が挨拶し、続いて事務局長から一言頂戴した後、継承部会員の和田耕一さんの乾杯の音頭で会が始まりました。

円卓には7、8人がくじ引きで着席し、食事をしながら各テーブルで自己紹介や色々な問題点等を話し合いました。会の途中には歌や余興、失敗談の発表等でマイクを握る人が多く、継承部会最年長の尾畑正勝さんの詩吟、早崎猪之



交流会の様子

継承部会に入会された木口久さん・小西伸一さんの紹介など、楽しい宴会

の場が繰り広げられました。

前継承部会長の濱崎均さんも病氣回復され、「講話に参加します」とのお話があり、元氣になられたお姿を拝見しましたが、その後のあまりにも早いご逝去に驚き、悲しんだのは周知のことです。

また、病気のため声帯を切除され、声を出せなくなった松添博さんがマイクを握り、器具を喉に当てて話されると、会場いっぱい話が始まり、講話も近々始められてもよいのではないかと思います。

今回の交流会も楽しく終了する事が出来、今後是非行ないたいと思えました。

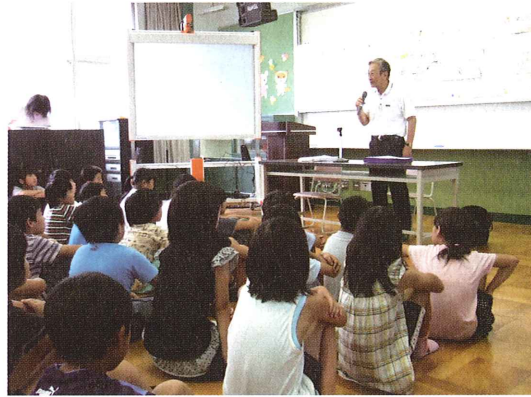
23年度被爆体験講話状況報告

被爆66年目を迎えた平成23年度は、東日本大震災の影響で海外からの申し込みはキャンセルが相次ぎました。その一方で、東日本方面への修学旅行から行き先を変更した学校からの申し込みが増え、平成22年度と比べると微増となりました。地域別に見ますと、関西地方からの依頼が特に増えています。

この実績には、自治体からの依頼により県外へ継承部会員を派遣した件数なども含まれています。今年度は、北海道札幌市、秋田県秋田市など14市町（長崎県被爆体験講話者派遣事業分を含む）へ派遣いたしました。

年度	件数	人数
19年度	1,060	140,814
20年度	1,192	159,880
21年度	1,279	166,166
22年度	1,333	165,859
23年度	1,351	172,882

被爆体験講話件数と聴講者数の推移
(23年度は本年3月10日現在)



大阪府八尾市内の小学校での講話の様子

また、平成21年度から、追悼平和祈念館が主体となり被爆体験講話の様子を撮影する「被爆体験講話収録事業」を行なっています。平成23年度には、13名の継承部会員の講話を収録いたしました。この事業は今後も継続を予定しています。

継承部会員の平均年齢は78.7歳（平成24年3月現在）となりました。平成23年度には3名の講話者が逝去されましたが、新たに2名の入会者を迎えました。

これからも被爆の実相を多くの方に伝えるべく、活動していきます。

●長崎県主催の派遣事業へ講話者を派遣

長崎県では、平成17年度より、原爆の悲惨さや核兵器廃絶の必要性を考える機会を作り、母国で語り広げてもらう事を目的として、県内大学の留学生らを対象に、被爆体験講話や被爆建造物等を見学する「長崎平和大学」を行っております。

これに加え、平成23年度からは「被爆体験講話者派遣事業」として、被爆体験を直接聞く機会が少ない県内市町、および県外大学へ被爆者を派遣し、被爆体験講話と原爆写真パネル展示を行うこととなりました。



琉球大学での講話の様子

当協会では県からの依頼を受けて「長崎平和大学」へ継承部



新上五島町での講話の様子

会員を派遣しており、「被爆体験講話者派遣事業」へも協力いたしました。

初年度となる平成23年度は、大村市・新上五島町の県内2市町、鹿児島大学・熊本大学・九州情報大学・琉球大学の県外大学4箇所へ継承部会員を派遣いたしました。

講話を聴講した留学生からは、「祖国では爆心地付近の人や動物は死んだという話を聞いていた。今回、被爆者が生存していることを聞いて嬉しかった」「自国で戦争について学んだ時には他人事という感じだったが、お話を聞いて語り継ぐ必要性を感じた」などの感想が聞かれました。

この事業は平成27年度までの実施が計画されています。

八名信夫氏講演会 を開催しました

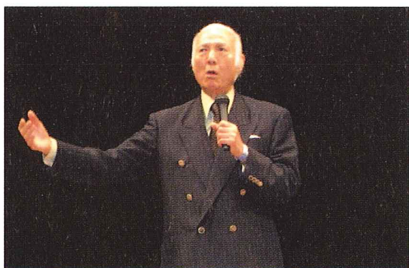
2月18日(土)、長崎市平和会館ホールにおきまして、当協会設立記念事業「八名信夫氏講演会」を開催しました。

降りしきる雪の中、平和会館を訪れた200人のお客さんを驚かせたのは、会場前のハワイエで皆さんを出迎える八名さんの姿でした。

一人一人と握手、撮影、サインに応じ、にこやかに挨拶をされる八名さんの前には長い行列ができていました。

八名さんのお話は少年時代の戦争体験にはじまり、プロ野球選手時代や現在までの役者稼業、そして悪役商会の立ち上げなど多岐にわたり、時折笑いを交えながらも人生訓について熱心に語っておられました。

講演の途中、所用で退席されるお客さんが何名かおられました。全員が壇上の八名さんに一礼をして出て行かれたのが印象的でした。



米国新型核兵器性能実験 に対して抗議文を送付

本年1月初旬、米国が昨年7月から11月にかけて新型核兵器性能実験を2回実施していたとの報に接し、長崎平和推進協会は1月10日、オバマ大統領及びルース駐日大使へ抗議文を送付しました。

今回の実験は、オバマ大統領のプラハ演説をきっかけに「核兵器なき世界」実現へ向けた機運が高まりつつある国際社会に逆行する事態であり、実験に対し強く抗議し、すべての核兵器関連の実験を放棄して、地球上から核兵器をなくすため共に歩んでいただくよう要請しました。

会員加入のご案内

～一緒に平和の輪を広げませんか?～

長崎平和推進協会は、「核兵器廃絶と世界恒久平和」を目指して昭和58年に官民一体となって設立されました。

被爆体験と平和の尊さを伝える「被爆体験講話」や原爆資料館や被爆建造物等を案内する「平和案内人」の派遣など平和に関するさまざまな活動をしています。

会員になっていただくための詳しいパンフレットをご用意していますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

(公財)長崎平和推進協会
長崎市平野町7-8
電話 (095) 844-9922



会員数報告

◎維持会員	1、157名
◎賛助会員	162名
◎学生会員	13名
合計	1、333名
	平成24年3月16日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

◎匿名	五千元
◎(財)広島相互扶助会	五万円
◎匿名	六千元
◎川上 正徳	一万円
	(敬称略)

会員のみなさまへ

協会の活動は、みなさまから頂いた会費によって支えられています。まもなく平成24年度の会費の払込取扱票をお送りいたしますので、最寄りの郵便局で納入下さいますようお願いいたします。